

JCES ニュース

Japan Comparative Education Society

NO.26

第 50 回大会のご案内

第 50 回大会準備委員会 委員長：西野節男

このたびは日本比較教育学会第 50 回大会を、名古屋大学東山キャンパスで 2014 年 7 月 11 日（金）-13 日（日）の日程で開催させていただきます。名古屋大学での開催は 2004 年の第 40 回大会以来で、その時はまさか 10 年後に第 50 回記念大会が名古屋にまわってくるとは思っておりませんでした。心もとなない委員長ではありますが、名大は人材が揃っておりますので、皆様のお力添えをえて充実した第 50 回記念大会にできればと思っております。大学の授業回数の縛りが強くなり、6 月の最終週と 7 月の第一週の土曜日が補講日に定められており教室が使えず、今年はかなり遅い 7 月の第二週の開催とせざるを得ませんでした。梅雨空でなければ、本当に暑い名古屋を実感していただき、その暑さに負けないような、比較教育学の研究に関する熱い議論が交わされればと願っております。

会場は昨年の上智大学のようなおしゃれな施設と環境とは大きな隔たりがありますが、ラウンドテーブルと自由研究は全学教育棟、そして公開シンポジウムと課題研究、総会、懇親会は（広い山手通りを挟んで反対側の）豊田講堂（ホール、シンポジオン、アトリウム）で開催いたします。公開シンポジウムは、宗教界から識者を招き、宗教が紛争の火種となることが多い現代において、グローバル化する世界における教育と宗教者の役割について考える予定です。課題研究 I には、WCCES のトーレス会長と CIES の元会長アーノブ氏をお招きし、また日本の比較教育学の重鎮と中堅も交えて、比較教育学研究の辿ってきた道程を振り返り、その課題と展望について多様な観点から議論したいと考えております。課題研究 II は、「ヨーロッパにおける外国人生徒の教育に向けた現状と課題」（仮題）を予定しています。

昨年度からスタートしましたウェブ上での参加・発表申し込み、発表要旨登録なども今年も引き続き同様をお願いしたいと存じます。さらに経費節減のため会員の皆様へのプログラムの郵送については、今年は無しにさせていただき、ウェブ上で誰でもアクセスしてダウンロード可能な形式に致したいと存じます。他方、発表要旨収録については例年通りに冊子体で大会当日に配布する予定です。皆様にはご不便をおかけすることもあるかと存じますが、ご容赦いただくとともに、実り多い第 50 回記念大会にすべく皆様のお力添えをお願い申し上げる次第です。

大会準備委員会連絡先

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 1
名古屋大学大学院教育発達科学研究科服部美奈研究室気付
日本比較教育学会第 50 回大会準備委員会
Tel/Fax 052-789-2649
E-mail jces50.nagoya@gmail.com
URL <http://www.gakkai.ne.jp/jces/taikai/50/>

台湾の比較教育学会主催シンポジウム参加報告

国際交流委員会委員長 杉本均（京都大学）

2013年10月18-19日に台湾の比較教育学会主催の国際シンポジウム、「アジアにおける人材競争と流動：教育、越境、経済」（International Symposium Talent Competition and Circulation in Asia: Education, Migration and Economy）が台北の台湾師範大学で開催され、日本からは院生を含めて6名の参加がありました。台湾の比較教育学会より日本比較教育学会に招へいの打診がありましたので、国際交流委員会にて審議しました結果、委員長の杉本均（京都大学）を派遣いたしました。また先方からの希望もあり、当学会より杉村美紀会員（上智大学）、米澤彰純会員（名古屋大学）が参加・発表されました。

シンポジウムは台湾師範大学の王如哲（Wang Ru-Jer）教授をホストとして、世界比較国際教育学会会長であるカリフォルニア大学のカルロス・トーレス（Carlos Torres）教授をはじめ、トロント大学のジェーン・ナイト（Jane Knight）教授、香港教育学院の莫家豪（Ka Ho Mok）教授、ユネスコからモーリー・リー（Molly Lee）博士など名だたるメンバーが一堂に会する機会となりました。

会議の中心的議題は、近年展開の著しい、クロスボーダー高等教育（あるいはトランスナショナル高等教育）とアジアを中心とした大学間交流ネットワークの進展というホットなテーマが繰り返し論じられました。知識基盤社会の到来に直面して、各国の高等教育はその国際的なマーケットにおける価値に大きな関心を持ち、そのグローバル人材流動の中心（ハブ）になることを意識して、実に様々なプログラムが展開されている現状が報告されましたが、同時に国際プログラムの質の保証の問題、共通のルールや概念枠組みの欠如、遠隔ICTコースの妥当性、国際ランキング評価の問題点などが指摘されました。

それぞれのセッションごとに自由な小グループラウンド討議が設けられるなど、なごやかな雰囲気、尽きない議論の輪がひろがりました。なお、シンポジウムへの参加・滞在の細部にわたって、国立暨南国際大学の教授で、日本比較教育学会の国際交流委員会メンバーでもある楊武勳先生には、行きとどいたご配慮をいただきましたことお礼申し上げます。



各種委員会報告とお知らせ

●研究委員会報告

委員長 杉村 美紀

1. 学会科研の活動報告

2013年11月17日に、Mark Bray (香港大学)、Ora Kwo (香港大学)、高山敬太 (ニューイングランド大学)、Maria Manzon (シンガポール国立教育研究所) 各氏を招聘し、比較教育学セミナー“Comparatively Rethinking Shadow Education in New Times”を開催しました。発表者を含め25名の参加者がありました。研究会後、翌18日には、前日の議論を受けて、高山敬太、Maria Manzon 両氏を囲み、今後の研究課題とプロジェクトとしての展望についてフォローアップミーティングを行いました。

本セミナーで中心としたのは、Mark Bray and Chad Lykins ed., Shadow Education: Private Supplementary Tutoring and Its Implications for Policy Makers in Asia, ADB and CERC, 2012. で、アジア各国におけるShadow Educationの実態と分析について述べた同書を基に、比較教育研究のあり方や課題を討議しました。なお、同文献は下記よりフルテキストのダウンロードが可能です。

(<http://www.adb.org/sites/default/files/pub/2012/shadow-education.pdf>)

2. 震災後プロジェクトについて

本プロジェクトでは、メンバー個々人の研究調査活動を軸とし、これまで第48回大会(2012年・九州大学)および第49回大会(2013年・上智大学)においてコミュニティ復興と教育の役割という観点を軸にラウンドテーブルを行ってきました。来る第50回大会では、個々人の研究調査をそれぞれ自由研究発表として発表する予定です。

3. 第50回大会(名古屋大学)における研究委員会企画について

園山大祐会員(大阪大学)を中心に、「ヨーロッパにおける外国人生徒の教育に向けた現状と課題」(仮題)というテーマで「課題研究Ⅱ」を企画します。

●紀要編集委員会報告

委員長 竹熊尚夫

紀要編集委員会は紀要第48号を既にお手元にお届けし、現在は第49号の編集作業に入っています。山内

乾史前委員長との二人三脚での3年任期の終点がようやく見えてきました。

年二回刊行の編集は、一言でいえば息をつく暇がない感じでした。この中で、編集委員の先生方には査読の任に加えて、様々なアドバイスを頂くばかりか、編集過程上での無理なお願いにも快く引き受けていただき感謝に堪えません。また、歴代幹事の先生方には、委員会開催、編集作業の雑務など、継続的に助けていただきました。

紀要編集委員会の仕事は、沢山の投稿論文の強い気持ちと向き合いながら、査読し、採択するという大変厳しい、胸が痛むことの多い業務でした。一方で、ご不満をお持ちの会員もおられることと思います。ご意見は真摯に受け止めて次の委員会に引き継ぎたいと思いますので、ご理解、ご協力いただければ幸いです。

さて、第49号では、特集に海外の比較教育学会の紹介とその研究動向等の分析を企画しています。3月現在、代表的な学会について様々な角度から本会員の先生方を中心にご執筆いただいているところです。名古屋大学での第50回大会時に配布されますので、ご期待ください。

次回の投稿締め切りは7月20日です。次は新執行部で新しい編集委員会が組織されます。大会総会やHP等で確認いただき、新編集委員会事務局の住所に投稿いただけますようお願いいたします。

●比較教育学会創設50周年記念事業報告

50周年記念誌編集委員長 南部広孝(京都大学)

2014年度に学会創設50周年を迎えるにあたり、記念事業の一環としまして50年の歩みを振り返る記録(50周年記念誌、仮称)の作成を進めています。10年前に刊行されました『日本比較教育学会40年の歩み』を基礎にしつつ、それ以降の10年分を追捕するとともに、現時点で収集可能な情報を加える予定です。7月の大会時まで完成させ、学会費を納入いただいている会員に配付することになっています。学会として残しておくべき情報をお持ちの会員がいらっしゃいましたら是非ご提供いただきますようお願い申し上げます。

■お知らせ

●役員選挙の実施について

2014年は3年に一度の役員改選が実施されます。本ニューズレターに、会員各位の学会登録個人情報同封されています。投票地区の確定に必要となりますので、変更がある方は、必ず4月4日（金）までにSOLTI上にて変更手続きを行って下さい。理事選挙は4月11日（金）から4月25日（金・必着）の期間で行われる予定です。会員の皆様にはもれなく投票いただきますようお願い致します。

●新入会員 (2013年9月～2014年2月入会申し込み)

村田 晶子 (法政大学)
 ライアン 優子 (静岡大学国際交流センター)
 麻生 久美子 (日本大学)
 山近 隆介 (株式会社パデコ)
 Palacio Fernando Diego
 (筑波大学教育開発国際協力研究センター)
 林 師敏 (広島大学院生)
 樂 大維 (早稲田大学院生)
 隅田 姿 (広島大学院生)
 白銀 研五 (京都大学院生)
 門松 愛 (京都大学院生)
 宮古 紀宏 (早稲田大学)
 日下部 光 (大阪大学院生)

(2013年2月16日現在の会員数 966人)

●年会費納入のお願い

年会費納入状況をご確認いただき、未納分がある肩は下記の口座へ早めのご納入をお願いいたします。紀要は年2回発行ですが、本学会では当該年度の会費納入を確認後、学会紀要『比較教育学研究』をお送りしています。3年を超えて会費未納の方は会員資格を失います。

〔郵便振替口座〕00820-6-16161

日本比較教育学会事務局

〔銀行口座〕広島銀行西条南支店 普通 3126345

日本比較教育学会 一般

*ご所属先を通じて納入される方は、入金の際に必ず事務局までご一報下さいますよう、お願い申し上げます。

所属機関名にて振込を行われる場合は、該当会員を特定することが難しいため、必ず事務局へご連絡をお願いします。

●学会への寄贈図書紹介

以下の図書を、著者・出版社より本学会にご寄贈いただきました。厚く御礼を申し上げます。なお、紀要および研究報告書の寄贈については、数量多数のため、掲載を割愛させていただきます。御了承ください。

- ・ 本柳とみ子『オーストラリアの教員養成とグローバルイズム—多様性と公平性の保障に向けて—』東信堂、2013年。
- ・ 竹田美知『グローバルゼーションと子どもの社会化—帰国子女・ダブルスの国際移動と多文化共生—』学文社、2013年。
- ・ 横山佐紀『ナショナル・ポートレート・ギャラリー—その思想と歴史—』三元社、2013年。
- ・ 村田翼夫・佐藤真理子編著『南南教育協力の現状と可能性—ASEAN新興ドナーを中心に—』協同出版、2013年。
- ・ 日本教育制度学会編『現代教育制度改革への提言（上・下）』東信堂、2013年。
- ・ マルカム・ノールズ著、堀薫夫・三輪建二監訳『成人学習者とは何か—見過ごされてきた人たち—』鳳書房、2013年。
- ・ 丸山英樹・太田美幸編著『ノンフォーマル教育の可能性—リアルな生活に根ざす教育へ—』新評論、2013年。
- ・ 青木麻衣子・佐藤博志編著『オーストラリア・ニュージーランドの教育—グローバル社会を生き抜く力の育成に向けて—』東信堂、2014年。
- ・ 秦由美子『イギリスの大学—対位線の転位による質的転換—』東信堂、2014年2月。
- ・ 浜田博文編著『アメリカにおける学校認証評価の現代的展開』東信堂、2014年。

図書・刊行物の送付、学会運営に関する連絡

〒739-8524 広島県東広島市鏡山1-1-1

広島大学大学院教育学研究科

日本比較教育学会事務局・広島大学内事務局

Tel/Fax : 082-4242-6231

E-mail jcesjimu@hiroshima-u.ac.jp

〒170-0004 東京都豊島区北大塚3-21-10 アーバン大塚3F

(株)ガリレオ 学会業務情報化センター内

日本比較教育学会事務局

Tel : 03-5907-3750 Fax : 03-5907-6364

E-mail g020jces-mng@ml.gakkai.ne.jp